

Management Club Report

Feb. 2009/Vol. 74

Monthly Opinion 《教育機関としての歯科医院》

初めて小児専門の歯科医院から『院内チェックと改善提案セミナー』の依頼を受け、2月3日に実施してきました。私たちは小児歯科に伺ったのは初めてでしたので、院内での動きや院長の考え方に接し、大変な驚きを感じたのでした。小児歯科とはこのようにして子供に接し、子供から恐怖を取り除き、子供を勇気付け、動機付けて治療を行っているのか！その魔術のような“子供あしらい”に驚嘆してしまっただけです。

その小児歯科は静岡市葵区にある『医療法人社団コロムビア会アヒルの子歯科』、院長は塩田雅朗理事長です。

アヒルの子歯科での体験は、私たちに改めて「歯科医院は間違いなく教育機関でもあるな」との思いを強くさせてくれました。歯科医療とは何か、歯科医療はいかにあるべきか、最もプリミティブな問い掛けに、アヒルの子歯科は小児歯科の中に明快な答を見出し、それを実践しているように見えました。

今月はアヒルの子歯科での体験を基に『教育機関としての歯科医院』について述べて見たいと思います。



1

バリュー・ビジョン・ミッションの整合性

小児歯科で対人関係の研修？

昨年秋のことです。「アヒルの子歯科から訪問コンサルについて聞きたいと電話がありました」という伝言を出張先で聞きました。

「アヒルの子歯科？」初めて聞く名前でした。

「小児歯科か？小児歯科で対人関係の研修ってあるのかな」

そんなことを考えながらも新しい話には本能的に体が動いてしまう、そんな『営業マン』体質の抜けきらない私は、直ぐにアヒルの子歯科の電話番号を叩いていました。